

【研究ノート】

保育専門科目「乳児保育」における 授業展開についての再検討

藤 重 育 子

1. はじめに

本研究は、次年度以降の「乳児保育」授業計画について再検討することを目的とする。内容については、保育者養成校における科目「乳児保育」担当者である筆者自身の授業内容の振り返りと、これまで各養成校で実践されてきた科目担当者の授業内容を調査しながら、学生にとってよりよい授業展開となるよう計画を作成する。また、乳児保育分野では、保育所保育指針の改定に伴い、現行の「保育の内容」における年齢区分の変更も見られたことから、今後の科目「乳児保育」のシラバスにおいても変更点が必要であると思われる。そこで、本稿においては、先行研究から見られる科目「乳児保育」関連の授業内容報告や授業計画が記載されているシラバスからの分析を行い、保育所保育指針の乳児保育部分の変更点も踏まえた上で、次年度以降の「乳児保育」授業計画について再検討する。

科目「乳児保育」とは、児童教育学科専門科目の児童支援学群に位置しており、2年次生該当の保育士資格必修科目である。シラバスに記している授業を通して修得できる力として、学士のコミュニケーション・スキル、問題解決力、社会的責任が挙げられており、それらを育むような授業展開を行っている。

2. 保育所保育指針の改定に伴う乳児保育の位置づけ

平成20年厚生労働省から告示された保育所保育指針では、第2章「子どもの発達」に「1. 乳幼児の発達の特性」「2. 発達過程」と記載があり、ここで8区分の発達における適切な援助を求めるものであった。また第3章「保育の内容」においても、「1. 保育のねらい及び内容」には、養護に関わるねらい及び内容として生命の保持、情緒の安定の文言が、「2. 保育の実施上の配慮事項」に乳児保育に関わる配慮事項として5点、3歳未満児の保育に関わる配慮事項として6点、3歳以上児の保育に関わる配慮事項として9点が挙げられているのみであった。

平成29年厚生労働省から告示された保育所保育指針では、第2章「保育の内容」において、「1. 乳児保育に関わるねらい及び内容」と「2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び

内容]、「3. 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容」に区分されており、これまでとは異なる乳児保育の重要性が強調されている。さらに、乳児保育のねらい及び内容については、身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」、社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」及び精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」としてまとめ示されていた。また、乳児以降の年齢に関しても、3歳未満児と3歳以上児のそれぞれの発達段階に応じたねらいと内容が5領域の視点から記載されており、月齢や時期に応じた保育がなされるよう丁寧に指示されている。そして「4. 保育の実施に関して留意すべき事項」に関しては、保育全般に関わる配慮事項として6点、小学校との連携として3点、家庭及び地域社会との連携が挙げられ明文化されていた。以上のように、他章においても改定の大きなポイントは見られるが、乳児保育および保育内容に関しては、非常に意義深い変更点が見受けられた。

3. 先行研究に見られる科目「乳児保育」

科目「乳児保育」においては、授業担当教員の様々な取り組みが見受けられた。ここでは、先行研究に見られる授業展開や学生の学びについて取り上げる。三好ら（2005）は、模擬保育を中心に「乳児保育」の授業を展開していた。その中で、第1回の模擬保育において子どもを理解する必要性を感じた学生が第2回の模擬保育へ向けて学習意欲を高めたことや、振り返りの不十分さを指摘しており、実践力へ繋げるための課題を見出していた。萩尾（2010）の報告では、子どもの生命の尊さや命を育むことの意義などに重点を置き、視聴覚教材や自身の作成したスライドを中心に乳児保育の正しい認識と理解ができる取り組みを行っている様子がうかがえた。和田（2015）は、伝承遊びを授業内で発表することによる学生自身の学びと気づきについて報告している。乳児保育の子どもと保育者の関係については、相互をよく見て心を動かし伝えよう読みとろうと寄り添いながら充実していくものであり、伝承遊びがその1つの手立てとなり得ること、互いに発表し合うことで実際に声を発し一緒に動いて体験したことが子どもの育ちを支える具体的内容であると示している。またそのように学生が把握できていることも明らかにされていた。前林（2017）では、手作り玩具に着目し継続してそれらを使用した授業計画がなされていた。製作段階での学生の学びとして、子どもの発達段階における感覚機能や認知機能、運動機能や社会性などを考慮することや、学生同士が意見を出し合うこと、互いに評価すること、などが重要と考えられ、数回にわたり取り組まれていた。そこでの手作りの温かさを感じることや子どもがそれらを大切に思い、子どもの心を豊かにしてくれるものが手作り玩具の魅力であるとして、内容が展開されていた。

それらに関連して、授業展開や授業実践報告だけでなく、受講後に「乳児保育」の授業を通じた学びや課題について学生や卒業生を対象にたずね、どのように捉えているのかをはかっている報告も見受けられた。船越（2010）は保育所実習を終えた学生を対象に、乳幼児保育の保育や養育行為について項目でたずね、科目「乳児保育」の理論と実践を結び付ける材料とするための調

査を行っていた。保育所実習において6か月未満児に関わった学生はそうでない学生と比較して、環境整備など安全面での配慮や気付きなどの項目に有意差が見られたことを明らかにしていた。そのため、養護についての体験が必要であること、特に視覚的教材やロールプレイ、モデル人形を利用することと学生の実習での情報や体験を共有するワークショップなどの必要性を強調していた。加藤（2016）は卒業生が就職後、保育現場へ抱く乳児保育に対しての困難さや課題についてたずねまとめていた。トラブル・けがの処置・アレルギー対応などの個々に必要な援助方法や対策、着脱の援助や声かけ、行事の予備知識、手遊び、未満児の遊びなどの知識や技術、経験などによるものなどが挙げられていた。

以上のように、これまで報告に挙げられている科目「乳児保育」の特徴として、担当教員の専門領域や得意とする分野、実践内容が全15回のうち多くの回数で実施されていることがうかがえた。また、その実践内容から子どもの発達段階や保育者としてのあり方を学生に汲み取らせたいという思いを感じ取ることもできた。それらは、研究や報告で挙げられている以外の側面からも読み取ることができるだろう。そこで次に、担当教員が作成しているシラバスから調査分析を行う。

4. 科目「乳児保育」のウェブシラバスによる調査分析

厚生労働大臣の指定する保育士を養成する学校その他の施設を、指定保育士養成施設と呼び、その一覧から本務校と同県にある大学、短期大学の計28施設を取り上げ対象とした。各養成校情報は厚生労働省ホームページに掲載されている最新（平成28年4月1日現在）のものを使用した。各養成校のホームページからウェブシラバスを検索し、一般公開されている閲覧可能な25校の科目「乳児保育」をダウンロードし調査分析を行った。科目名に関しては、「乳児保育」に統一されており、中にはⅠ・ⅡやA・Bのようにクラス分けや学期で区分されていた。以下、ウェブシラバスの内容やそこに記載されている情報の詳細についてまとめた。

(1) 履修学年や履修時期

履修該当学年別に見たところ、4年制大学では2年次での履修は6校、3年次で3校、1年次で1校、4校は不明であった。短期大学では1年次での履修は6校、2年次で1校、4校は不明であった。養成校入学後比較的早い段階で乳児保育の学習が始まっていることが見て取れる。これまでの報告にも挙げられている通り、乳児期の保育内容や方法については保育実習に向けて、しっかりと押さえておきたい科目であることが理解できる。

また、通年科目と位置づけている養成校は3校のみで、22校において学期毎に科目が分けられていたり担当教員が異なっていたり、選択や必修の別が見られたり様々な授業形態が見られた。

(2) 担当教員

記載のあった科目担当教員について、所属大学の一覧や経歴から調査した。4年制大学と短期大学を合わせて7校の養成校において、保育現場経験者が科目を担当していることがわかった。次いで3校が実習担当者であった。そうすることにより、保育実習と関連づけて指導することができるメリットがあるだろう。またそれ以外の養成校において、科目担当者の他科目について調査したところ、5校で保育内容5領域のいずれかを担当していることや、2校で医学や保健などの医療的な科目を担当していた。多くの養成校において、保育や幼児教育分野の専門性が高い教員が科目を担当していることがわかった。それに加え、別の視点から見ると19校において科目担当教員が専任教員であることや、3校において他の保育者養成校に所属している教員が非常勤講師として担当していることが把握できた。これらは、保育の知識や技術を習得したい学生の学習環境の充実にも繋がっているといえるだろう。

(3) 授業内容

授業計画として15回の授業内容から、複数回にわたり教授している内容や特徴的であった部分を挙げまとめる。多くの養成校において乳児の発達や保育内容について指導する項目が見られ、中でも18校の授業内容に、4回以上の乳児の発達や乳児の保育内容を取り上げていることがわかった。また、22校の授業内容の中で1回以上は、基本的な生活習慣について、養護や保育内容5領域についての記載が見られた。特徴的であった内容は、手作り玩具の製作と発表、指導計画の立案と実践、保育者の労働環境についての講義、事故リスクマネジメントや危機管理に関すること、などを挙げて授業を計画立てている養成校もあった。授業の概要や到達目標については、文言は異なるが、発達の理解をはじめ乳児保育における保育士の役割を学ぶ内容や、理論や知識技能を習得すること、技術と実践力を身につけることなどが中心に挙げられており、どの養成校においても共通されていた。

(4) 教科書と参考書

22校において、教科書として挙げられている指定図書があり、その中でも4校以上で取り扱われていた書籍は以下の3点であった。ひとつは書房発行の『資料でわかる乳児の保育新時代 乳児保育研究会／編』、株式会社みらい発行の『乳児保育新時代の保育双書』、株式会社萌文書林発行の『見る・考える・創り出す乳児保育－養成校と保育室をつなぐ理論と実践』と、いずれも保育や教育、福祉分野などの専門書を扱う出版社が発行している書籍であった。その他の養成校においても、「乳児保育」や「乳児の生活」「0、1、2歳児の心の育ち」などの語句が見られる教科書を指定しており、授業の概要や到達目標、または授業内容に沿った教科書が選択されているものと推測できた。また参考書として保育所保育指針や解説書を挙げている養成校が多く、これらは本科目だけにとどまらず、あらゆる科目で使用するため参考書として取り上げ、学生の目に触れる機会が多くあることが望ましいだろう。

5. 「乳児保育」の授業内容

今年度の科目「乳児保育」の授業内容については表1に示す通りである。教科書は『乳児保育新時代の保育双書』を用いており、該当する章についての学習を各回行っている。他の養成校の特徴に見られた、発達に関しては、4回（第6～9回）実施しているが、これらの発達区分が現行の保育所保育指針であるため、教授回数や内容の変更が必要であろう。本科目は通年授業のため、前期に基礎的な知識の習得や理論的な講義を、後期に指導計画や模擬保育に関する指導案作成などの実践を、多くの時間で設定している。これらは、履修学年である2年次生が後期に初めての保育実習を経験するため意図的に計画していた。通年科目の「乳児保育」は、他の養成校と比較しても十分な時間配分で授業計画が設定されていることが明確であり、半期の同科目授業計画においては交互に実施していたり、発達段階を学習した直後に指導計画案の作成を行ったりしているなどの工夫も見られた。そこから、次年度に向けては、学生が実践する時間を前期から設け、理論と実践を繋げることができるよう内容を変更していきたいと考えている。また他の養成校では沐浴の練習や玩具製作などの演習を見ることができた。本科目も第10、11回目には技術を身につけるための演習、第21回～28回にはグループでの実践の時間を設けているが、それらの実践について、次年度の授業計画においては、後期の終盤に偏ることなく、前期の早い段階から継続して行うことで、より技術の定着がはかれるのではないかと思われた。

今回ウェブシラバスではあるが、他の養成校の同科目の授業計画を見ることで、参考にしたい授業展開や実践方法などに触れることができた。改訂された保育所保育指針も参考にしながら、学生にとってよりよい授業計画を立てていきたい。

表1 2017年度「乳児保育」授業計画

前期		後期	
回	内容	回	内容
第1回	オリエンテーション、乳児保育について	第16回	第7章：乳児期の保育課程と指導計画
第2、3回	第1章：乳児の保育と思春期への育ち	第17回	第8章：保育の記録と評価の方法
第4回	第2章：愛されて育つことの意味	第18回	第9章：伸びやかさを育てる遊びと保育
第5回	第3章：胎児の世界と謎	第19回	第10章：乳児期の児童文化と遊び
第6～9回	第4章：乳児期の発達	第20回	乳児の発達、遊びや玩具についての振り返り
第10、11回	だっこやおんぶ、おむつ交換や着替えの手法を学ぶ	第21、22回	グループ内での模擬保育（手遊びやうたあそびなど）の実践
第12、13回	第5章：乳児期の生活と保育	第23、24回	グループ内での模擬保育（玩具を使用した遊び）の実践
第14、15回	第6章：乳児期の環境と人間関係	第25～28回	グループワーク（乳児保育の模擬計画、実践）
		第29、30回	授業のまとめと振り返り

引用文献

- 船越利代子 (2010) 「『乳児保育』授業における課題－保育所実習アンケート分析から－」 つくば国際短期大学紀要第 38 巻, pp.2-14
- 萩尾ミドリ (2010) 「保育者養成校における『乳児保育』の意義と理解－わかる授業をめざして－」 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 33 号, pp.71-76
- 加藤房江 (2016) 「乳幼児における模擬保育の試み 1－卒業生の課題を手がかりに－」 埼玉純真短期大学研究論文集第 9 号, pp.33-38
- 前林英貴 (2017) 「『乳児保育』における手作りおもちゃの意義と学び」 人間と文化第 1 巻, pp.145-151
- 三好年江・石橋由美 (2005) 「授業『乳児保育』の模擬保育から学生が学んだこと」 新見公立短期大学紀要第 26 巻, pp.151-160
- 和田幸子 (2015) 「授業『乳児保育 I』における学生の学びと気づきについて－伝承遊びの発表に焦点を当てて－」 京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部研究紀要第 53 号, pp.135-145

参考文献

指定保育士養成校一覧 (平成 28 年 4 月 1 日時点)

https://www.hoyokyo.or.jp/exam/qa/pdf/hoiku_youseikou.pdf

以下、科目「乳児保育」が掲載されている 2017 年 9 月現在のウェブシラバス (大学名冒頭数字は指定保育士養成校掲載番号を表す)

271 兵庫大学 生涯福祉学部 シラバス

http://www.hyogo-dai.ac.jp/research/education/pdf/29/childwelfare_syllabus_02.pdf

272 関西福祉大学 発達教育学部 シラバス

http://portal.kusw.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=322400&P2=2017&P3=20170916

274 神戸医療福祉大学 社会福祉学部 シラバス

http://www.kinwu.ac.jp/kobe_syllabus_2017/204.pdf

473 神戸親和女子大学 発達教育学部 シラバス

<https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp>

477 神戸女子大学 文学部 シラバス

http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/wu/public_information/pdf/syllabus2017wu-lit_2.pdf

479 甲南女子大学 人間科学部 シラバス

https://lily.konan-wu.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_c24E84095-852E-E822-03E5-CD62FE866B9C_k491ADCEB-2FD3-943A-93FD-A7649C710CF0

480 神戸海星女子学院大学 現代人間学部 シラバス

<http://www.kaisei.ac.jp/media/education/pdf/Syllabus2017.pdf>

482 神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 シラバス

http://ksw.shoin.ac.jp/kyoumu/kyoumu-info/2017syllabus_u/syllabus_u/syllabus_u201719.pdf

483 神戸常盤大学 教育学部 シラバス

<http://www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/%E3%81%93%E3%81%A9%E3%82%82%E6%95%99%E8%82%B2%E5%AD%A6%E7%A7%91.pdf>

593 姫路独協大学 医療保健学部 シラバス

http://www.himeji-du.ac.jp/univ/syllabus/refer/10/2/2017_10_105435.html

597 関西学院大学 教育学部 シラバス

<https://syllabus.kwansei.ac.jp/uniasv2/AGA030PLS01EventAction.do>

599 武庫川女子大学 文学部 シラバス

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2016/html/111301630.html>

- 603 園田学園女子大学 人間教育学部 シラバス
http://www.sonoda-u.ac.jp/syllabus/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=21771031&P2=2017&P3=20170401
- 604 関西国際大学 教育学部 シラバス
http://www.kuins.ac.jp/var/rev0/0015/1846/2_2_syllabus_2017_spring.pdf
- 265 湊川短期大学 幼児教育保育学科 シラバス
https://minatogawa.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=2017371&P2=2017&P3=20170401
- 266 芦屋学園短期大学 幼児教育学科 シラバス
http://www.ashiya-u.ac.jp/files/college/section/child/yoji_one_2017.pdf
- 267 豊岡大学短期大学部 子ども学科 シラバス
<http://koutoku.ac.jp/department/syllabus/docs/%281703%29%20%E6%8E%88%E6%A5%AD%E6%A6%82%E8%A6%81%20%E3%82%B7%E3%83%A9%E3%83%90%E3%82%B9%EF%BC%BF%E5%8D%98%E9%A0%81%E7%89%88.pdf>
- 269 兵庫大学短期大学部 保育科 シラバス
http://www.hyogo-dai.ac.jp/research/education/pdf/29/hoiku1_syllabus_01.pdf
- 476 頌栄短期大学 保育科 シラバス
<http://www.glory-shoei.ac.jp/tandai/disclosure/pdf/syllabus2017.pdf>
- 478 神戸女子大学短期大学部 幼児教育学科 シラバス
http://www.kobe-wu.ac.jp/jc/department/youji/pdf/hoiku-senmon-01_13.pdf
- 485 夙川学院短期大学 児童教育学科 シラバス
<http://www.shukugawa-c.ac.jp/wp-content/syllabus/2017jidou1.pdf>
- 594 姫路日ノ本短期大学 幼児教育科 シラバス
<http://www.himeji-hc.ac.jp/faculty/silabus.pdf>
- 598 聖和短期大学 保育科 シラバス
https://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/attached/0000122075.pdf
- 600 武庫川女子大学短期大学部幼児教育学科 シラバス
<http://www.mukogawa-u.ac.jp/kyoumuka/syllabus/2017/tan/kyou.htm>
- 602 園田学園女子大学短期大学部 幼児教育学科 シラバス
http://www.sonoda-u.ac.jp/syllabus/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=21724065&P2=2017&P3=20170401

[ふじしげ いくこ 保育幼児教育学]